

春の農作業へむけて、農業機械展示会を開催

メーカー自慢の最新・中古農業機械を展示



▲安全な農作業のために、より良い農業機械を紹介

J A 農業機械展示会『春のふれあい感謝デー』が3月14日と15日の2日間、J A あきた白神カントリエレベーター特設会場で開催され、多くの農家が各メーカーの農業機械を見定めに訪れました。

屋外会場では、キャタピラタイプの特ラクターや省力化が図られた田植機などが展示されたほか、軽量・簡単操作の草刈機などにも注目が集まっています。また屋内会場では、農作業中の事故防止に向けた作業安全講習会も行われ、事前点検や機械性能を把握する重要性が呼びかけられました。



前方が見える窓付き傘と、反射板付き手提げ袋を新一年生へ大切な児童の事故防止へ、交通安全傘を寄贈



▲齊藤市長へ交通安全グッズを手渡す袴田組合長

交通安全への啓発と事故防止に向けて、今年管内の小学校へ入学する一年生児童に対し、J A は交通安全傘と反射板つき手提げ袋を寄贈しました。

この取り組みはJ A 共済連と共同で行っており、今年で3回目を数えます。3月25日に藤里町役場へ22本、28日には能代市役所へ440本が寄贈され、各小学校で児童へ配布されます。寄贈した袴田組合長は「児童の事故未然防止に向け、J A も地域と共に取り組んでいきたい。」と抱負を語りました。



管内4地区で、支店運営協議会を開催

生産者とともに、今後のJA経営を検討



▲地域農業の維持・発展へ向けて思いを語る袴田組合長

J A は3月5日と7日に管内4地区で支店運営協議会を開催し、第六次3カ年計画および平成25年度経営計画について協議を行いました。

はじめに袴田組合長が「変化する農業情勢に対応しながら支店事業を強化し、組合員にとってより良い組織を目指す。」と挨拶しました。その後、事業計画などについて説明が行われ、出席者からは第六次3カ年計画に基づいた営農指導事業等の強化や、作成が進められている『人・農地プラン』に対するJ A の支援・協力体制などが提言されました。

